## 化学療法計画書

ID					
氏名					
生年 月日					
実施部	署	発行	B		
身長 (cm)	160	体重 (kg)	50	体表面積 (m²)	1.50

指示医師:			
指導医師:			
投与開始予定日:	年	月	日
投与終了日:	年	月	日

病名	乳癌
治療法	カドサイラ単独療法

12	
	1
抗癌剤·商品名	カドサイラ
規格	100mg 160mg
一般名	トラスツズマブ エムタンシン
一日投与量(規定)	3.6mg/kg
患者情報から算出した 一日投与量	180 mg
実際の投与量	180 mg
	<b>3.6</b> mg/kg
投与日	day1
1クール期間	21日間
予定クール数	
検査スケジュール	原則的に投与日に化学療法施行前セット 検査データに応じて臨時に検査実施

適応基準	HER2陽性の手術不能または再発乳癌(2次治療以降) HER2陽性乳癌の術後補助化学療法(術前化学療法で病理学的完全奏功:pCRが得られなかった症例のみ)
推奨 経口剤	〇このレジメンは軽度催吐性リスク群です。推奨される経口制吐剤はありません。
禁忌	1.本剤の成分又はトラスツズマブ(遺伝子組換え)に対し過敏症(過敏症と鑑別困難で死亡につながるおそれのある重篤な Infusion reactionを含む)の既往歴のある患者 2.妊婦又は妊娠している可能性のある女性
中止基準	投与前の好中球数: 1000/mm3未満、血小板数: 50,000/mm3未満 骨髄機能が回復するまでは投与延期 (CTCAE ver4.0 における Grade3 の血液毒性に準拠)
副作用	●カドサイラ 重大 1.間質性肺疾患 2.心障害 3.過敏症 4.Infusion reaction 5.肝機能障害、肝不全 6.血小板減少症 7.末梢神経障害 その他 (5%以上)頭痛、味覚異常、悪心、嘔吐、便秘、口内乾燥、下痢、口内炎、腹痛、鼻出血、発疹、爪の異常、関節痛、筋骨格痛、 食欲減退、血中ALP増加、貧血、好中球数減少、白血球数減少、倦怠感、疼痛(背部痛、四肢痛等)、発熱、無力症、 (1~5%未満)錯感覚、めまい、不眠症、嗜眠、消化不良、歯肉出血、腹部膨満、高血圧、動悸、ほてり、呼吸困難、咳嗽、鼻漏、 口腔咽頭痛、そう痒症、皮膚乾燥、皮膚炎、脱毛症、皮下出血、紅斑、筋痙縮、回転性めまい、流涙増加、 視力障害(霧視、視力低下等)、眼乾燥、結膜炎、血中カリウム減少、リンパ球数減少、悪寒、 インフルエンザ様疾患、浮腫、体重減少、鼻咽頭炎、粘膜の炎症、尿路感染、上気道感染、胸痛、鼻炎、挫傷
備考	〇投与開始前および投与期間中に定期的に心エコーを実施すること(LVEFが投与開始前では50%未満、 投与期間中では45%未満となった場合は投与中止あるいは減量を検討すること)

## カドサイラ単独療法 観察記録

)

年齢: (

才)

ID(

氏名:

所要時間 初回 2時間半 2回目以降 1時間半

施行日 クール 回目 施行前内服薬( ) 入外( ) 抗癌剤用量 抗がん剤以外の 指示医師: 計画書設定量 薬剤の変更・追加 カドサイラ( mg ) 計画書設定量より減量 -般名(トラスツズマブ エムタンシン) 計画書設定量より増量 医 師 減量·增量理由 投与 口投与決定 口未決定 口延期・中止 調剤 実施 開始時間 側管 本体 初回 2時間30分かけて点滴【100mL/h】 生食250mL 2回目以降 1時間30分かけて点滴【167mL/h】 投 生食100mL +ラモセトロン1A 与 30分かけて点滴 【200mL/h】 + デカドロン 指 2 A 示 初回 90分かけて点滴【167mL/h】 生食250mL+カドサイラ 2回目以降 30分かけて点滴 【500mL/h】 ※フィルター付き点滴ラインで投与 本体終了後抜去 サイン ●穿刺部位 カバサイラ 投与前 投与後 投与中 項目 ) 末梢( 右手 左手 その他: 体温 CVポート(逆血 有り 無し) バ 脈拍 1 ●穿刺針 タ 血圧 / / ル 末梢留置針 20G 22G 24G) SpO<sub>2</sub> 呼吸困難 CVポート穿刺針22G ( 16mm 19mm 25mm) 看護記録 サイン 紅斑•発疹 悪寒 疼痛 観 嘔気 察 サイン 嘔吐

アクシデント

(過敏反応、不整脈、血管外漏出等)

お薬手帳

※身長160cm 体重50kg 体表面積1.5㎡の患者さんの場合の 1日治療に掛かる抗がん剤薬価(day1のみ)

Oカドサイラ: 471,640円